

日中対照研究の第一人者が描きだす 日本語文法と中国語文法の異なりの諸相

杉村 博文



A5判 376頁
白帝社
[本体 4,600円 + 税]

楊凱榮著
中国語学・日中対照論考

本書は、日中対照研究における第一人者として斯界を牽引し続ける楊凱榮教授の代表的論考一七編を収める。内、九編は中国語で、八編は日本語で執筆されている。執筆期間は一九八九年から二〇一七年にわたり、本書によって読者は著者の研究の軌跡を明晰にたどることができる。そしてそれは同時に中国語学、なかならず日中対照研究の深化の軌跡をたどることでもある。一九八九年の論考のタイトル「文法の対照的研究——中国語と日本語（本書「10、日中ヴォイスの対照研究」）」と二〇一七年の論考のタイトル「从标记有无看汉日对信息来源的处理——以感情、感觉及状态变化的表达为例」からもその一端をうかがい知ることができよう。

著者は中国語ネイティブであり、日本語学習から中国語学、日中対照言語学の道に入った。おそらくその出自が本書に取

り上げられた様々な研究テーマとの出会いに大きく反映している。例えば「6、『も』と『也』」は「ビールを三本も飲んだ」の「も」を取り上げる。「也」にはこの「も」に対応する用法が存在しない。「15、日語否定疑問句的功能及汉语的对应表现」では「コーヒーでも飲みませんか」のような提案に用いられる否定疑問文を取り上げる。中国語の否定疑問文にこのような提案用法は存在しない。「13、日中受益表現と所有構造の対照研究」では「子供の弁当を作らなければならないので……」が「我要做孩子的盒饭，所以……」とならず、「我要给孩子做盒饭，所以……」となる問題を取り上げる。これらはいずれも日本語学習の初期の段階で出会う一見たわいない現象であるが、実際にはどの現象も両言語において大きな射程をもつ文法現象であり、その間の事情を両言語の文法体

系の中できちんと位置づけることは決して容易な作業ではない。研究テーマの選択に著者の言語学的センスのよさを感じる。

また、「5、数量詞を修飾する『好』の意味機能」「17、現代中国語の人称代名詞『人家』について」「8、『个个』『一个个』『一个一个』的语义功能及认知上的差异」などは、中国語の口語ではきわめて常用であるのに日本語にその直訳的対応表現が存在しない表現を取り上げている。自らの母語である中国語において常用であるということは、日本語学習者にとって、如何にそれを正しく自然な日本語に翻訳するかが大きな課題としてのしかかってくる。換言すれば、本書は紛れもない一級の研究書であるが、中国人の日本語学習者にとっても、また日本人の中国語学習者にとっても極めて切実な問題を多く扱っており、実用的にも裨益するところが少なくないのがある。

本書の論証はどのテーマに対しても細緻で周到である。それは著者が中国語学と日本語学に等しく通じるあかしであり、本書の一番の魅力ともなっているのだが、評者にとって、本書の一番の魅力は実は著者が中国語ネイティブであることに発している。文法分析を進めるには、例文の成否やニュアンスの判定を正しく行わなければならない。そして、

時にそれには容易には意識に上らない語感の喚起が求められる。本書の随所に散りばめられた著者の語感から評者の知識は様々な挑戦を受けた。いくつか紹介してみよう。

「10、日中ヴォイスの対照研究」には、「小孩被医生救了」という受動文は成立せず、「救」に結果を加えて「小孩被医生救活了」としななければならないという記述が見られる。しかし、次のような用例は決して珍しいものではない。

这大哥在我们村当过知青，掉山洞里，被我爹救了，如今找到我了，要报答我们。

她因为又冷又饿，差点儿没死，幸亏被一老人救了，她就做了这人的儿媳。

著者の語感に問題がなく、小説の用例にも問題がないとすれば、おそらくこれは医療救命と遭難救助の対立であり、遭難救助では必ずしも求められない結果への言及が、まさしくそれを目指した行為である医療救命には強く求められるということであろう。浦島太郎がカメを救う場面と医師が難病患者に手術を施す場面を想起されたい。なお、「救」という動詞は「你救了我」も「你把我救了」も成立する。

「2、从表达功能看『了』的隐现动因」では「他坐车来了」を不成立、「他坐飞机来上海了」を不自然と判定した上で、選ぶべき構文は「他是坐车来的」「他是坐飞机来上海的」で

あると指摘する。しかし、以下のような用例は容易に見つかる。

赵大虎坐特快列车来了。

小芳就从木田到合肥，坐火车到北京来了。

同じく著者の語感に問題がなく、小説の用例にも問題がないとすれば、これには会話と小説における事件叙述の展開方式の違いが関係している可能性がある。会話体では複数の要素を含む事件を一つの節にパッケージ化することを避け、一つ一つ分解し複数の節で展開することを好む。例えば「赵大虎坐特快列车来了」だと「赵大虎来了，（是）坐特快来的」のようにである。本書の記述は、複雑なパッケージ化をいとわない小説言語における事件叙述という発話環境が著者の観察対象から漏れてしまったせいかもしれない。

著者は「从表达功能看」了」的隐现动因」以外に「4、句中成分的焦点化动因及优先度等级」でも文末助詞の「了」と「为什么」の共起に言及し、「了」が事態の変化を表す場合に限り、両者の共起が可能だと指摘する。例えば「他昨天为什么给我打电话了？」だと、「彼はこれまで私に電話をかけて来たことなどない。それが昨日は何を思ったのか突然電話をかけてきた」のような読みをしなければならず、単に「彼は昨日なぜ私に電話をかけたのか」と読んでは成立しないとい

うことである。しかし、変化を読み込みにくい文脈でも「了」と「为什么」が共起した用例は決して珍しくない。

他打电话约你吃饭，你为什么拒绝了？直到今天还不肯原谅他？

我怎么这么倒霉？别人碰不上的人事为什么偏被我碰上了？我招谁惹谁了？

这么大的事，为什么不等着我来就偷偷摸摸地动手了？

これらの例は変化を伝えてはいない。伝えているのは意外性に発する強い驚きである。文末助詞の「了」が表す意味として「表示新情况的发生」あるいは「表示变化」が提案されているが、前者の「新」に意外性やニュース性を含ませる必要を感じる。そうすれば「了」と「为什么」との共起に意味論的動機づけが与えられ、「了」が時に語気助詞と呼ばれる説明にもなる。

著者は「9、表全称义句式的中日对比研究」の第三章で「昨天参加会议的谁都生气了」や「刚才谁都吃饭了」の不成立を根拠に、「谁都……」という構文は話者の想念上の世界を表現するためのものであり（「碰到这种事情谁都会生气的」は成立する）、過去のある時点において発生した事件を述べることはできないと指摘する。しかし、表現が肯定であるか否定であるかに関わらず、過去のある時点において発生した事件を

述べる「谁都……」は容易に見つかる。

这几天，有关那『野种』的事儿，满院子谁知道了，可谁也不对老爷子说半句。

当时，谁都没想到萍萍怀了孕，我是一九九八年才知道的。

この問題は「谁都……」という強意の全称表現を用いる動機づけが十分に読み取れるかどうかに関わっていると思われる。例えば「满院子（的人）谁都知道了」と「满院子的人都知道」を比べれば、伝える客観的な意味は変わらないが、全称的口調は明らかに前者が強い。著者の例が不成立なのは、「谁都……」を用いる動機づけが不明瞭なために生じた結果である可能性が高い。試みに「昨天参加会议的谁都生气了」の「生气了」を少し大仰にし「昨天参加会议的人谁都憋了一肚子气，没处发泄，直想骂娘」と言い換えれば、文は問題な

く成立する。

「13、日中受益表現と所有構造の対照研究」で著者は「老师，我给您拿吧」という例を挙げ、日本語では聞き手が敬意を払うべき対象である場合、その人への恩恵授与を明示するとかえって失礼な表現になるが、中国語の「给您」には「そのような語用論的含意が存在せず、単なる与格名詞としての受益者を導入しているに過ぎない」と指摘する。日本語に関する指摘に問題はないが、中国語に関してはむしろ中国語は聞き手に対する恩恵授与を明示することによって話し手の聞き手に対する敬意を表すことができ、恩恵授与の明示は決して失礼な表現にはならないと考えるべきではないだろうか。そのような中国語の特徴は「请坐，我特意在家恭候大驾」のような「特意」の用法などと関連して夙に指摘されてきたことで

幅広いテーマにわたる三十年の研究の軌跡

中国語学・日中対照論考

毛詩注疏訳注小雅(三)

田中和夫 訳注 「毛詩注疏（正義）」は毛、鄭を基とする『詩経』旧注の集大成。本書はその小雅篇、卷十の一二部分の訳注。西周「中興」の主とされる宣王を詠った一群の詩が現れる。

■6000円

楊凱栄 著

「了」をめぐって二スコープと焦点をめぐって三数量強調をめぐって四全称表現をめぐって五フォイスをめぐって六構文の意味と構文の相違をめぐって七語用論をめぐって

■4600円

□新刊□

佐藤利行教授
還暦記念 日中比較文化論集

佐藤利行教授還暦記念論集刊行会 編 李均洋／趙敏俐／吳相洲／森岡文泉／趙建紅／荒見泰史／張立新／彭広陸／徐一平／張威／劉振／任穎／李建華／中村平／王維坤／佐伯雅宣／太田亨／川島優子による日本語中国語論文17編 ■6000円

白帝社

※価格は税別

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-1
TEL 03-3986-3271 FAX 03-3986-3272
http://www.hakuteisha.co.jp

ある。事実、「老師」を友達扱いする傾向の強い若年の中国語ネイティブは「给您」に恩恵授与を感じ取り、むしろ「老師（让）我来拿吧」という表現を好む。

中国語の例はこれくらいにし、日本語の用例に対する語感について一点だけ紹介する。著者の操る日本語はほとんど非の打ち所がなく、だからこそ高品質の日中対照研究を生み出せるのだが、それでも時々「そうかな？」と思わせられるところがあった。

「15、日语否定疑问句的功能及汉语的对应表现」の中に「みなさん、ご質問ありませんか」という否定疑問文が挙げられている。使用文脈は「複数の聞き手を前にしてある説明を終えたのち、話し手から聞き手に対して丁寧な質問の有無を問う」で、著者は、日本語では丁寧さを表現するため、このよう場面において否定疑問文を採用すると指摘する。しかし、評者なら説明完了直後には「（説明は以上です）みなさん、何か質問はございますでしょうか」と肯定形を用いて聞き、否定疑問文は質疑が一段落したのち、さらに質問の有無を確認する段階になってはじめて使う（他に何か質問はございますでしょうか）。表現を最大限単純化した「質問ある？」と「質問ない？」を比較されたい。いきなり「質問ない？」と切り出すのは不自然ではないだろうか。

以上、著者の語感に触発されていくつか疑問を提起し、評者なりの解釈を加えてきたが、評者の解釈が正しい保証はどこにもない。それを承知であえてあれこれ疑問を提起したのは、本書が日本語ネイティブにとっても中国語ネイティブにとっても刺激満載の一冊であることを知ってもらいたかったからである。本書から刺激や啓発を得て多くの新しい研究成果が生み出されることを期待したい。

（すぎむら・ひろふみ 大阪大学名誉教授）